

## &lt; 事業所自己評価\_様式例 &gt;

## 【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 悠仁福祉会	事業所名	複合型施設 鳳凰槇島
所在地	(〒611-0041) 京都府宇治市槇島町大川原 35-5		

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2019 年 12 月 19 日	従業者等自己評価 実施人数	( 15 ) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

※ 当該様式は、「事業所自己評価」の結果を整理するとともに、その結果を運営推進会議へ報告するための様式として使用します。また、運営推進会議において得られた主なご意見等は、次ページ以降の「運営推進会議における意見等」の欄にメモします。

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
			自己評価	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、積極的に地域に出て行き、地域の要望等に応えられる開かれた事業所づくりをしていく必要がある。</li> <li>有事に備え、迅速に対応できるように、継続して訓練を実施していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>R 元年度より、自治会会議へ参加している。地域に対して事業所の取り組みの報告や地域住民向けの行司や子どもを対称としたレクリエーションの開催、地域の要望等を聞いて応えられる環境を整備した。</li> <li>有事に備え消防訓練及び水害対応訓練を実施した。訓練結果は、地域運営推進会議にて報告している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続した行事等の取り組みは必要である。自治会会議に参加はしているが、地域住民としての深い関係性までは構築できていないと感じている。事業所の報告の場だけではなく、地域の方々と出来るだけ同じ目線で参加出来るように、もっと地域への信頼関係の構築が必須であると感じる。</li> <li>令和元年度は初めて地域住民も参加しての訓練となった。地域との連携強化、信頼関係を深めるためにも継続して取り組んでいきたい。</li> </ul>	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて、24 時間に着目したアセスメントを基にケアプランを作成するようにしている。</li> <li>ケアカルテ（電子化）に変更なった為、該当する様式がなく、24 時間のアセスメントを基にした取り組みが不十分であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用者、また更新時に、アセスメントとして、あらたに1日のスケジュールを記入するシートが導入された。そこから、着目してケアプランに取り入れるように努めている。</li> </ul>	

	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、生活全般に着目したインフォーマルサポート等のケアの提案が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のために考えられるインフォーマルサポート等を含めたケアの提案が実施できるように、月1回検討会議を実施しているが、ケアの提案にはいたっていない。</li> </ul>	<p>毎月のボランティアが主体となった地域行事、歌や傾聴ボランティア、地域の子どもの交流を対象とした企画をおこなっている。</p>	
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、鳳凰槇島の役割や機能について情報発信し、地域との交流を深めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の自治会会議への参加、機関紙の配布、地域との交流行事や家族交流会等を通じて、鳳凰槇島の役割や機能について情報発信できた。</li> </ul>	<p>徐々にではあるが、地域行事や施設行事への地域交流を通じて信頼関係の構築が出来ていると感じる。</p>	
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の顧客満足度調査を実施し、結果を地域運営推進会議で報告する。</li> <li>・看取りの研修を実施し、看取りについての必要性や事業所としての対応、各職種、職員の役割について理解することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の顧客満足度調査を実施し、結果を地域運営推進会議で報告した。</li> <li>・看取りの研修会を実施し、理解をすることができたが看取りの実施までにはいたっていない。</li> </ul>	<p>顧客満足度調査の結果から、安定した事業運営、より良いケア、サービスの質の向上に繋げていき、ご利用者、ご家族へ安心してご利用していただけるように努めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看取りについては、まだ実施事例はないが、しっかりと看取りへの理解をして、看取り希望のご家族もいるため、受け入れが出来る体制作りを始めている。</li> </ul>		

※「進捗評価（運営推進会議における意見等）」には、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします。その他の欄は、事業所が記載します

■ 「今回の改善計画（案）」および「運営推進会議における評価」

項目		改善計画（案）	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		地域の方を対象とした月 1 回の認知症予防レク、年 1 回の認知症サポーター要請講座等、自治会の協力を得ながら実施しているが、まだまだ地域との関わりは必要である。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	・ 24 時間に着目したアセスメントを基にケアプラン作成を継続していく。	
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	・ 生活全般に着目したインフォーマルサポート等のケアの提案は継続していく。	
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	・ 医療ニーズの高い新規利用者の要請、相談等あればを積極的に受け入れていく。また、地域の方を対象とした認知症予防レク、認知症サポーター要請講座、地域へ向けた行事等、自治会の協力を得ながら実施しているが、地域との信頼関係の構築は必要である。	
III. 結果評価 (評価項目 42～44)		新規利用者の確保、職員間でのコミュニケーション、連携、情報共有、家族との関わり等、さらなる事業のサービス、質の安定、向上に努めていく。また、職員の就業率の定着率の安定のため、内、外の研修参加、有給休暇の取得の充実等にも積極的に取り組んでいく。在宅での看取りも、協力していただける医師もおり看取りへの環境は整いつつある。	定着率が（80%～90%）が高いことは大切なポイントだと思います。改善すべきところは、スタッフが変われば改善へ繋がると思います。福祉業界だけではなく、定着率が悪い中で頑張られていると感じます。チームワーク良く、ワンチームでないといけないし、部下への配慮が出来ているからだと思います。お金だけではなく、皆さんの力が優れていると感じます。

※「改善計画（案）」には、事業所としての案を記載します。「運営推進会議における意見等」は、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>I 事業運営の評価 [適切な事業運営]</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</li> <li>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(2) 人材の育成</b>							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</li> <li>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</li> <li>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</li> </ul>
		<b>【具体的な状況・取組内容】</b> 教育訓練計画書を作成し、それに基づき研修を実施している。また、新規採用職員については、プリセプター制度による教育を実施している。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<b>【具体的な状況・取組内容】</b> 月1回の内部、外部研修に加え、鳳凰槇島全体でも月1回の研修を開催している。また、管理者成研修などの外部研修にも積極的に参加している。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</li> </ul>
		<b>【具体的な状況・取組内容】</b> 毎日、朝礼にて申し送りを実施、また月2回ケア会議を開催し、利用者の情報を共有している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(3) 組織体制の構築</b>							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○				<p>✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b>            地域運営推進会議にて要望や助言等があれば、各所属長が出席する鳳凰槇島の運営会議において報告するとともに、サービスの提供等に反映している。</p>					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	○					<p>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b>            就業時間は、8.5時間拘束（7.5時間勤務、1時間休憩）と他施設より短く、働きやすい職場づくりに努めている。            また、令和元年度は働き方改革の取り組みの一環として、年次有給休暇等の積極的な取得環境の整備に努め、年間で最低5日の取得促進に向けて実践している。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	○					<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b> 記録全般を紙媒体から電子化へ変更し、迅速に情報共有ができるように改善している。</p>					
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○				<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b> 事故が発生した場合は、コールバック連絡書を作成し、再発防止対策を立案し、対策が有効であったかを期間を設定して確認している。 ヒヤリハットについては、安全対策委員会において情報を集約し、未然に事故が防止できるように対策を立案している。</p>					



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</li> </ul>
<b>II サービス提供等の評価</b>							
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>							
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</li> <li>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</li> </ul>
<p>② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成</p>							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</li> </ul>
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○				<p>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 入院後等の状態変化や、要介護認定の変更時はもちろん、ケアプランの短期目標も、利用者によって6ヶ月の設定とし、適宜見直しを実施している。</p>					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○				<p>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 月1回のモニタリング時以外に、状態変化があれば随時介護支援専門員が自宅に訪問し、状況把握に努めている。 また、職員が日々の送迎時に家族とコミュニケーションを図り、できるだけ生活状況を把握するように努めている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○				<p>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b> 主治医へは、必要に応じて連絡しており、退院時には病院のカンファレンスにも参加し関係多職種と情報を共有している。</p>					
<b>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○				<p>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</p>
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b> 月2回ケア会議を開催し、それぞれの立場から意見交換をおこない、それぞれの役割について確認している。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○				✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<b>【具体的な状況・取組内容】</b> 月2回ケア会議以外にも、必要に応じて臨時カンファレンスを開催し情報共有や対応を検討している。					
<b>② 看護職から介護職への情報提供および提案</b>							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	○					✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		<b>【具体的な状況・取組内容】</b> 主治医との連携により、必要な情報を得て、迅速な指示が出せるよう看護師と介護職員が連携している。また、ケアカルテ（電子化）にて看護指示や情報共有を図っている。					
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							
<b>① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供</b>							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<b>【具体的な状況・取組内容】</b> サービス導入時にはパンフレットを使用し説明しており、契約書及び重要事項説明書を交付している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ケアプランに同意を得ており、残存能力の維持の支援や留意点について説明している。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	○					✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 看護師が自宅へ訪問し、指導している。また、福祉用具貸与事業所等、必要な外部事業所とも連携を図っている。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○				✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 重度化した場合の対応方法について、利用及び家族と決めている。終末期ではないが、在宅での看取りについての希望者はあり、担当者会議やカンファレンスを開催し検討している。				家族のご意見も大事だが、本人の思いも大切なので、難しいですね。話し合っ決めてるのは良いと思います。	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 状態変化を繰り返す利用者についてはできている。不安なことなど、随時相談できる環境を作っている。</p>					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</li> </ul>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 主治医と密に連携を図り、医療関係職種より本人、家族へ説明の機会を作り、記録している。</p>					



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>							
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</li> </ul>
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</li> <li>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○				<p>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 協力医療機関を定めており、24時間対応できるように待機看護師を定めている。</p>					
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○				<p>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</p> <p>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</p> <p>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> サービス向上委員会において、利用者のために考えられるインフォーマルサポート等を含めたケアの提案が実施できるように、月1回検討会議を実施している。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b>  施設玄関にファイルを設置し、いつでも閲覧が可能であるが、情報発信はできていない。</p>					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</li> <li>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</li> <li>✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます</li> </ul>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b>  月1回発行している“鳳凰榎島通信”をなごみりあ榎島団地へ配布するとともに、榎島コミュニティーセンターにも配布することで、情報発信している。  また、併設している居宅介護支援事業所の介護者交流会にも参加し、サービス概要の説明等を実施している。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	/	/	/	/		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</li> <li>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	およ そ で き て い る	あ ま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている				○		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</li> </ul>
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</li> <li>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域 の関係者に対し、必要に応じ て課題提起や改善策の提案 等が行われている			○			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</li> <li>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</li> </ul>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えてい</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							くなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない 場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
----	------	---------	-------------------	----------------------

### Ⅲ 結果評価

#### ① 計画目標の達成

42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> モニタリングにて計画目標が達成されているか確認している。		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
----	---------------------------------	--	--	-----------------------

#### ② 在宅での療養生活の継続に対する安心感

43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下にお	① ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が
----	--	---	--	--



番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
	<p>いての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている</p>	<p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 年1回、利用者及び家族に対して、満足度アンケートを実施し、アンケート結果を基に改善できるように努めている。</p>		<p>必要な状況下においての、「在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します</p>
44	<p>○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている</p>	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない</p> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 現在2名看取り希望者はあるが、実施にまでは至っていない。</p>		<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>